

天栄のダム など現地調査

県公共事業評価委

県公共事業評価委員会は十六日、天栄村の龍生ダムと川内村の県道小野富岡線(西ノ内工区)で現地調査を行った。

田村孝浩委員長(宇都宮大農学部准教授)ら委員十人のうち六人が参加した。このうち、龍生ダムでは、二〇二三(令和

県職員から事業の説明を受ける委員



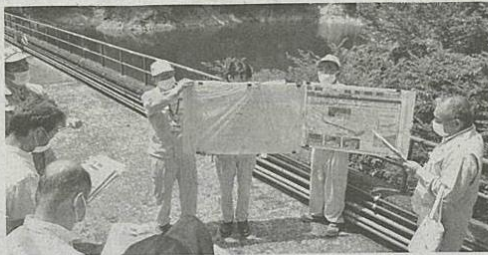
五)年度の完了を目標として進められている管理システムの更新や、堆積した土砂の搬出について県職員から説明を受けた。費用の増額を伴う事業計画の変更が想定されており、理

由や必要性を確認した。八、九月月に開く委員会で、委員の意見をまとめ、事業評価に活用する。

龍生ダムの現状調査

県公共事業評価委

県公共事業評価委員会は十六日、天栄村の龍生ダムで現地調査を行った。県の担当者が現状を説明しながら



委員から説明を受ける県の担当者
＝天栄村・龍生ダム

ら、管理棟の新設や管理システムの更新などのため整備計画を一部変更する方針を示した。

県はダムの洪水調節機能を向上させるため、2023年度の完成を目指してダム内に堆積した土砂の撤去

などを進めてきた。水量などを管理する一部の機器に不具合があり、管理棟の劣化が進んでいることなどから計画を変更し、事業費の増額を検討している。

この日は田村孝浩委員長(宇都宮大農学部准教授)ら委員6人が参加し、県の担当者から説明を受けた。田村委員長は「現場を見たことで、計画変更の意義が確認できた」と話した。同日は、事業採択から10年が経過した県道小野富岡線も視察した。評価委は調査結果を踏まえ、9月までに意見をまとめる方針。

